



# 営農サポート通信 第15号

平成25年4月 営農企画室：営農サポーター（TAC）



Tとことん、A会って、Cコミュニケーション!!

各作物の植付け作業で、忙しい日々が続いていることとご拝察いたします。今月も日によって寒暖の差が有りますので、体調管理には充分気をつけて農作業を行いましょう。

## 焼酎原料甘藷情報

苗は採苗直後に植え付けるより「**数日、取り置く**」ことで、根が伸び活着も良くなります。また、根がイモになりやすくなります。

《苗の取り置き方法》

- ・取り置き日数は3~4月で4~5日。5~6月は2~3日が適当。
- ・涼しい日陰にゆるく束ねて立てて置く。
- ・下に濡れむしろ等を敷き、ポリフィルム等をかぶせ湿度を保つ。



以前、紹介した甘藷苗床で使用する追肥の件で、問い合わせが有りますので、再度お知らせします

## ノルチッソ（硝酸カルシウム）（水に溶けやすく即効性）

価格：2,867円（税込）

特長：節間が短く丈夫な苗が出来る。

施肥方法：約50mの単棟ハウスに10kg使用を目安

例1) 2週間おきに散布し十分に灌水を行う

例2) 2回の採苗毎に散布し十分に灌水を行う

※使用事例ですので、明確な施肥基準が有りません。

※尿素、BB肥料より溶けやすく、肥料焼けの心配が少ないです。

類似品のカルパックとJポラスも同じような効果が期待できます。

●グリーンセンター・支所購買窓口では、注文品になる可能性がありますのでご注意ください。



(20kg袋)

## 甘藷植付け初期の保護に

《日照りが続くときには…》

表皮からの過度な水分の蒸発を防ぐ効果があり、苗のしおれ防止が期待できます。

100倍液で採苗前日の単用散布、または定植前日のドブ漬け処理。



使用方法は、別紙をご覧ください

規格：1kg

価格：1,827円（税込）

●お問い合わせは、営農サポーターもしくはグリーンセンター・各支所購買窓口へお願いいたします。

●グリーンセンター・支所購買窓口では、注文品になる可能性がありますのでご注意ください。

●価格は平成25年4月現在です。

## 加工馬鈴薯の管理について



4月からはアブラムシ・疫病対策として防除を徹底しましょう。

《今作での葉面散布の考え方》

昨年の比重とカラー値の上昇が遅れた原因の一つに、収穫直前まで窒素主体の葉面散布（メリット青、サンピ833など）を行い、成熟が遅れたことが考えられます。

○開花期以降のチッソ主体の葉面散布は、成熟を遅らせる原因となり、カラーの値上昇が遅れてしまう可能性があるため行わない。

○葉面散布は、開花期まで（おおむね4月いっぱい）とする。（県農業改良普及センターより）

## 春ゴボウの管理について

4~5月にかけては、ネモグリバエ・アブラムシ類・黒斑細菌病対策として、防除を徹底しましょう。

病虫害名	農薬名	希釈倍数	10a当たり散布量
アブラムシ類	ジメトエート粒剤	-	3kg
	ジメトエート乳剤	1,000倍液	100~300リットル
ネモグリバエ ヒョウタンゾウムシ	トクチオン細粒剤F	-	6kg
黒斑細菌病	Zボルドー	500倍	100~300リットル

※オルトラン水和剤を使用する場合は収穫45日前までです。

※ジメトエートは収穫21日前までの使用です。

※トクチオン細粒剤Fは収穫30日前までの使用です。

## 加工甘藷を栽培しませんか!!

園芸課では「宮崎紅」の原料が不足していますので作付け者を募集しています。ご希望される方は6月上旬定植でも間に合いますので、サポーターか各支所園芸指導員にご相談下さい。

◆【品種：高系14号】

- ・植付時期：4月中旬 ~ 6月上旬（苗は一本12円程度で販売します）
- ・出荷期間：平成25年9月中旬 ~ 平成25年11月中旬・コンテナ出荷
- ・単価：76~65円/kg（24年度参考単価）
- ・平均反収：2,000kg
- ・期待売上：150,000円/10a



TPP参加交渉について、安倍政権は国民からの圧倒的な支持と世論のTPP参加賛成（新聞等で70%）など、この好機に乗じて参加表明しました。国民はTPP問題に関心が少ないのか、およぼす影響が理解出来ていないのでは？と思ってしまう。農業関係者は参加した場合の食の安全と自給率の低下を心配していますが、TPP参加を大歓迎している企業や一部の国会議員の言動に憤りを感じます。安倍首相が「あの時の決断が後世に…」と英雄のように発言していますが、私は日本の将来が心配です。米、牛肉、豚肉、乳製品等を関税撤廃の対象としない「聖域」を強く発言していますが、諸外国からは、後から交渉参加する国は例外を認めない方針で会議は進んでいます。また、数千億とも言われる農業関係の影響に対する農家への支援対策や国民に対する説明責任が果たされていないのも現状です。今後もJAグループは国民に対しTPP問題が薄れないように、反対運動を展開していきます。

（文書取扱：JA都城 営農企画室：営農サポーター） 電話番号は38-6693です